

スマトラ沖大地震及びインド洋津波によるタイでの津波災害に対する
国際緊急援助隊（国際消防救助隊）の派遣について（第25報）

平成17年1月20日14時00分
消 防 庁

1 地震の概要

- (1) 日時：平成16年12月26日午前09時58分頃
（現地時刻：12月26日午前07時58分頃）
- (2) 地震の規模：M9.0
- (3) 震源地：インドネシア スマトラ島 西方沖
（北スマトラ州 メダン西方約300km）

2 派遣期間

平成16年12月29日に、国際消防救助隊（IRIT）第1次派遣隊（搜索救助隊）と第2次派遣隊（ヘリ部隊先遣隊）を派遣して以降、これまでに次の部隊を派遣している。

搜索救助隊

平成16年12月29日（水）～平成17年1月8日（土）

ヘリ部隊

平成16年12月29日（水）～平成17年1月20日（木）

専門家チーム（搜索技術・救援活動）

平成17年1月7日（金）～平成17年1月20日（木）

3 国際緊急援助隊の構成

全体隊員 合計 88名

- (1) 任務：搜索・救助活動等
- (2) このうち、国際消防救助隊（専門家チームを含む。）の構成（合計 46名）
 - 国際消防救助隊（IRIT）第1次派遣隊（搜索救助隊）12月29日派遣
計 13名
 - うち総務省消防庁 1名
 - （IRIT総括官：総務省消防庁救急救助課理事官 長尾 一郎）
 - 東京消防庁 5名
 - 大阪市消防局 3名
 - 千葉市消防局 2名
 - 相模原市消防本部 1名
 - 川越地区消防組合消防本部 1名
 - （そのほか、警察庁、海上保安庁及び外務省等から隊員（IRITを含め計49名）を派遣。）

国際消防救助隊（IRIT）第2次派遣隊（ヘリ部隊先遣隊）12月29日派遣

計 5名

東京消防庁 5名

国際消防救助隊（IRT）第3次派遣隊（ヘリ部隊本隊）12月31日派遣
計 24名

うち総務省消防庁 1名
（IRT総括補佐官：総務省消防庁防災課災害対策官 田辺 康彦）
東京消防庁 11名
大阪市消防局 12名
（そのほか、全日空整備株式会社の整備士3名を派遣。）

専門家チーム（搜索技術・救援活動）1月7日派遣

計 4名
うち総務省消防庁 1名
（チーム長：総務省消防庁防災課広域応援対策官 横山 忠弘）
東京消防庁 2名
横浜市消防局 1名
（そのほか、国際協力機構等から隊員3名を派遣。）

4 国際消防救助隊の派遣経過

平成16年12月28日（火）

- ・ タイ王国政府より、我が国政府に対して27日に援助の要請がなされ、政府が国際緊急援助隊の派遣を決定したことを受けて、消防庁長官が国際消防救助隊（IRT）の派遣を18時40分に決定。

12月29日（水）

8時50分 結団式（成田空港）

（第1次派遣隊）

10時45分 第1次派遣隊（49名。うちIRT13名）成田空港から出発。

（全日空：NH953便）

21時10分 バンコク経由 プーケット空港到着。

（第2次派遣隊）

17時15分 第2次派遣隊（IRT5名）成田空港から出発。

（タイ航空：TG677便）

30日10時31分 バンコク経由 プーケット空港到着。

12月31日（金）

（第3次派遣隊）

9時00分 成田空港において結団式

10時53分 第3次派遣隊（IRT24名）成田空港から出発。

（タイ航空：TG647便）

18時55分 プーケット空港到着。

平成17年1月1日(土)

(消防防災ヘリコプターの輸送)

深夜 消防防災ヘリコプター(2機:東京消防庁ヘリ、大阪市消防局ヘリ)を積載した大型輸送機アントノフが成田空港から出発。

1月2日7時00分 アントノフがプーケット空港到着。

1月7日(金)

(専門家チーム(搜索技術・救援活動))

10時42分 専門家チーム(4名)成田空港から出発。

(全日空:NH953便)

1月8日15時45分 バンコク経由 プーケット空港到着。

1月8日(土)

(第1次派遣隊)

7時08分 第1次派遣隊(48名。うちIRT13名)が成田空港に到着。

1月18日(火)

(消防防災ヘリコプターの輸送)

12時01分 消防防災ヘリコプター(2機:東京消防庁ヘリ、大阪市消防局ヘリ)を積載した大型輸送機アントノフがプーケット空港から出発。

20時34分 アントノフが成田空港到着。

1月19日(水)

(第2次派遣隊、第3次派遣隊及び専門家チーム(搜索技術・救援活動))

10時10分 第2次派遣隊、第3次派遣隊及び専門家チーム プーケット空港から出発。

(タイ航空:TG222便)

1月20日7時03分 バンコク経由 成田空港に到着。

(タイ航空:TG642便)

1月20日(木)

10時35分 解隊式(中央合同庁舎第2号館)

5 国際消防救助隊の活動状況

12月30日(木)

現地時間13時50分頃、タクアパー郡バーナムケム村で搜索救助活動を実施。津波により陸上に打ち上げられた船舶や廃材中に取り残された要救助者がいないか検索活動を実施した。

現地時間15時15分頃、ピピ島で生存者がいるとの情報があり、国際消防救助隊員5名を含む国際緊急援助隊救助チーム16名が海上自衛隊およびタイ国軍のヘリコプターでピピ島に向かい上空から搜索活動を実施した。

12月31日(金)

12月30日に引き続き、2班に別れてタクアパー郡バーナムケム村とピピ島で捜索救助活動を実施。

現地時間17時頃に、ピピ島にて行方不明になっていた日本人親子2名の遺体を収容した。

平成17年1月1日(土)

捜索救助隊は、現地時間8時00分頃から救助隊チームをピピ島に投入し、引き続き、捜索救助活動を実施。重機も活用し地元と協力して遺体を捜索。全体として数十名の遺体が発見されるが、救助チームとしては、8名の遺体を収容。この中には、日本人の女性の可能性のある2遺体が含まれるが、遺体の損傷が激しく、現地での確認が困難であるため、タイ本土に移送して、確認作業を行うこととなった。

ピピ島での活動終了後、プーケット島に引き揚げ。

ヘリ部隊は、活動の拠点となるプーケット空港内、現地のヘリポート等を確認。

1月2日(日)

団長以下8名は、タクアパー郡長より要請を受け、現地時間の15時頃から、同郡長も同乗し、タクアパー郡バーナムケム村を消防防災ヘリコプター2機で上空から捜索した。

1月3日(月)

捜索救助隊は、副団長以下6名により、カオラック国立公園付近を地上から調査・捜索活動実施。

ヘリ部隊は、午前中、消防防災ヘリコプターによりプーケット島からピピ島へ物資搬送を実施。また、プーケット空港からタクアパー郡へ医師等を搬送。

午後は、消防防災ヘリコプターによりプーケット島からコウカウ島、プラトン島へ物資搬送を実施。また、タクアパー郡からプーケット空港へ医師等を搬送。

1月4日(火)

捜索救助隊は、現地時間11時00分頃からタクアパー郡のリゾート施設において調査・捜索活動を実施。

ヘリ部隊は、午前中、消防防災ヘリコプターに捜索救助隊員4名が搭乗し、カオラック、プラトン島を中心に上空から被害調査活動を実施。また、プーケット島からピピ島へ物資搬送を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からコウカウ島、プラトン島へ物資搬送を実施。

1月5日(水)

捜索救助隊は、現地時間7時00分頃から、昨日に引き続きタクアパー郡のリゾート施設において調査・捜索活動を実施。

ヘリ部隊は、午前中、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からピピ島へ物資搬送を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からプラトン島へ物資搬送を実施。

1月6日(木)

午前中、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からタクアパー郡へ、日本からの支援物資(毛布、発動発電機、浄水器等)を輸送。その際、国際緊急援助隊団長が同乗し、支援物資を積下した後、引き渡し式を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からピピ島へ物資搬送を実施。

1月7日(金)

午前中、消防防災ヘリコプターにより、タクアパー郡からプラトン島へ支援物資(飲料水、食品等)の搬送を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からピピ島へ支援物資(日用雑貨、食品等)の搬送を実施。

1月8日(土)

10時50分、プーケットシティホール前公園において、町村外務大臣から激励を受ける。その後、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からピピ島へ支援物資(医薬品、飲料水、食料品、日用雑貨等)の搬送を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からスリン島へ支援物資(飲料水、食料品等)の搬送を実施。

1月9日(日)

ヘリ部隊は、午前中、消防防災ヘリコプターにより、シミラン諸島の上空から被害状況調査を行い、プーケット島からコウカウ島へ支援物資(食料品、飲料水等)の搬送を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からシミラン諸島へ支援物資(食料品、飲料水等)の搬送を実施。

専門家チームは、プーケットの自然災害研修予防対策センターにおいて、現地で災害予防の任務に当たっている内務省の関係教官等に対し、検索救助技術指導(救助資器材操作の実演、説明等)を実施。併せて、内務省災害予防軽減局長に対し、日本における津波対策への取組み等について説明した。

1月10日(月)

ヘリ部隊は、午前中、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からコウカウ島へ支援物資(食料品、飲料水、医薬品、可搬式ポンプ等)の搬送を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からスリン島へ支援物資(食料品、飲料水、医薬品、可搬式ポンプ等)の搬送を実施。

専門家チームは、引き続きプーケットの自然災害研修予防対策センターにおいて、現地で災害予防の任務に当たっている内務省の関係教官等に対し、検索救助技術指導を実施。

1月11日(火)

ヘリ部隊は、午前中、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からコウカウ島へ支援物資(食料品、飲料水等)の搬送を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からプラトン島へ支援物資(食料品、飲料水、テント等)の搬送を実施。

専門家チームは、午前中、プーケットの自然災害研修予防対策センターにおいて、現地で災害予防の任務に当たっている内務省の関係教官等に対し、検索救助技術指導を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターに搭乗し、プラトン島の上空から被害状況調査を実施。また、国防省、海軍関係者等約1,000名に対し、津波の発生と津波対策の講義を実施。

1月12日(水)

ヘリ部隊は、午前中、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からコウカウ島へ支援物資(食料品、飲料水等)の搬送を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からスリン島へ支援物資(食料品、飲料水、動力ポンプ、発動発電機等)の搬送を実施。

専門家チームは、午前中、プーケットの自然災害研修予防対策センターにおいて、現地で災害予防の任務に当たっている内務省の関係教官等に対し、検索救助技術指導を実施。

午後は、プーケット空港にて、在タイ王国日本大使館員及び総務省消防庁職員から、被害地を慰問中のタイ王国王室関係者(王女)に対し、総務省消防庁作成の津波に関する資料及び国際緊急援助隊の活動状況に関する資料を献上。

1月13日(木)

ヘリ部隊は、午前中、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からコウカウ島へ支援物資(食料品、飲料水等)の搬送を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からミアン島へ支援物資(動力ポンプ、食料品、飲料水等)の搬送及び上空からバトンビーチ、ガロンビーチ、ガタビーチの被害状況調査を実施。

専門家チームは、プーケットの自然災害研修予防対策センターにおいて、現地で災害予防の任務に当たっている内務省の関係教官等に対し、検索救助技術指導を実施。タイ王国内務省災害予防軽減局防災学校校長及び首相府予算局担当官による視察を受ける。なお、技術指導を終了し、プーケット空港へ引き揚げる途上、交通事故現場に遭遇し、傷病者1名を応急処置後、病院へ搬送した。

1月14日(金)

ヘリ部隊は、午前中、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からコウカウ島へ支援物資(発動発電機、食料品、飲料水等)の搬送を実施。

午後は、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からプラトン島及びコウカウ島へ支援物資(プラトン島には食料品、飲料水等、コウカウ島には動力ポンプ)の搬送を実施。

を実施。

専門家チームは、プーケットの自然災害研修予防対策センターにおいて、現地で災害予防の任務に当たっている内務省の関係教官等に対し、検索救助技術指導

を実施。

1月15日(土)

ヘリ部隊は、午前中、消防防災ヘリコプターにより、プーケット島からスリン島及びシミラン諸島へ支援物資(発電機、飲料水等)の搬送を実施。

午後は、上空からカオラック、タクアパー郡の被害調査活動を実施。

専門家チームは、プーケットの自然災害研修予防対策センターにおいて、現地で災害予防の任務に当たっている内務省の関係教官等に対し、検索救助技術指導を実施。ピピ島被害状況調査を実施。

また、一週間にわたって実施した検索救助訓練の修了式及び検索救助資器材の授与が行われた。内務省災害予防軽減局幹部職員30名程度に対し、津波の発生と津波対策、日本の防災対策等について講義を実施。

1月16日(日)

ヘリ部隊は、午前中、上空からカオラック、コウカウ島、プラトン島、シミラン諸島、スリン島、ピピ島等の被害調査実施。午後は、機体整備及び資器材整備を実施。

ヘリ部隊及び専門家チームの代表者は、プーケット県知事を表敬訪問した。

1月17日(月)

ヘリ部隊は、機体輸送準備(燃料抜き取り等)を実施。

専門家チームは、検索救助資器材の整備を実施。

1月18日(火)

ヘリ部隊及び専門家チームは、大型輸送機アントノフへの機体及び検索救助資器材の積み込み作業を実施。

1月19日(水)

ヘリ部隊及び専門家チームは、バンコクにおいて在タイ王国日本大使館を訪問し、大使に対し活動報告を実施。